

I 目指す学校

- (1) 「自主・自律」、「文武両道」、「伝統と創造」をスローガンに掲げ、高い志を胸に抱き、自らの夢の実現に向けて主体的に学び、国際社会で活躍できる人材を育成する学校
- (2) 生徒が、教科学習・キャリア学習・学校行事・部活動に積極的に取り組み、知性と教養を磨き、人間性を陶冶し、心と体をたくましく鍛える学校
- (3) 教職員が、学校経営計画を基に一致協力し、日々研鑽に励み、教科・学年・分掌が一体となった指導を展開し、生徒の夢の実現に向けて努力を惜しまない学校

【スクール・ミッション】

校風や伝統を継承し、探究心をもって高校生活に取り組むことを通じて、深く幅広い教養の修得、自主・自律の精神の涵養、個性の伸長を図るとともに、規範意識と倫理性、感性と美意識、主体的に行動する力、バランス感覚、体力や精神力を総合的に高め、社会に貢献できる将来のリーダーにふさわしい人間を育成します。

【スクール・ポリシー】

- (1) **グラデュエーション・ポリシー**〔育成を目指す資質・能力に関する方針〕
 - ・自ら学び、考え、実践する態度や力を育成します。
 - ・深く幅広い教養、規範意識と倫理性、体力と精神力を総合的に高めます。
 - ・社会への関心、コミュニケーション能力、問題解決能力などを身に付けた社会に貢献できるリーダーを育成します。
- (2) **カリキュラム・ポリシー**〔教育課程の編成及び実施に関する方針〕
 - ・2 学年までは全員がすべての教科を共通に学習し、幅広い教養を身に付け、3 学年からは個々の進路や適性に応じて、多様な選択科目を履修し、進路希望の実現に必要な学力を身に付けます。
 - ・各教科・各分掌が連携し、生徒の素質を伸ばし、希望進路の実現を図ります。
 - ・総合的な探究の時間を中心に各教科で主体的で対話的で深い学びを実践します。
 - ・部活動の時間も確保し、学業と部活動の両立を高いレベルで実現させます。
 - ・ICT機器を活用した新たな学びを実践し、授業の効率化を図り、密度の高い授業を提供します。
- (3) **アドミッション・ポリシー**〔入学者の受入に関する方針〕《本校の期待する生徒の姿》
 - ・校風や伝統を重んじ、自主・自律の精神を実践しようとする生徒
 - ・高い志を立て、その実現に向け、常に努力を重ねることのできる生徒
 - ・文武において切磋琢磨し、自己を高め、有為なリーダーを目指す生徒

II 中期的目標と方策

1 中期的目標

学習活動と特別活動は、本校の教育活動の両輪と捉え、全教員による組織的な指導体制を確立し、自主的・自律的に両立を図る力を伸ばし、社会のリーダーにふさわしいバランスの取れた人間を育成する。

伝統校の文化を継承・発展させ、先輩と後輩、在校生と卒業生の絆を深め、生涯「町高生」であることに誇りをもち続ける教育を実践する。卒業後も母校を愛し、懐かしく思い出すような有意義な高校生活を提供する。都民が期待する「進学指導特別推進校」として、生徒一人一人にきめ細かな学習指導・進路指導を行い、国公立大学・難関私立大学等に現役合格できる学力を身に付けさせ、希望進路の実現を図る。

生徒の教養を深め、知的好奇心を育て、生涯学び続ける意思と基礎を身に付けさせる。

2 中期的目標とその達成に向けた方策

- (1) 「自主・自律」、「文武両道」、「伝統と創造」の精神を組織的・計画的に涵養する。また、規範意識・社会性・人権意識を高め、社会のリーダーにふさわしい資質・能力を身に付けさせる。
 - ① 学習と部活動・行事等における「切り替えと集中」を徹底させ、自律的に「文武両道」を達成させる。
 - ② 全ての教育活動を通して生徒の自主性を向上させ、リーダーシップを育成する。
 - ③ 社会性やマナーを身に付けさせるとともに、伝統を重んじ、新たな文化の創造に取り組む精神を育む。
 - ④ 自他の価値観を尊重し、他者を思いやることのできる心を育てる。
- (2) 国公立大学や難関私立大学合格に向けた進学指導・学習指導体制を確立する。そして、高みを目指す

指導を行い、生徒の能力を伸ばす。さらに、「進学指導特別推進校」の使命として、生徒の素質を開花させ、難関国立大学及び国公立医学部に挑戦できる学力を育成し、希望進路の実現を図る。

- ① 進路指導部が中心となり、各教科・各学年との連携を図り、3年間を見通した進路指導を確実に実践する。
 - ② 年間を通して自習棟や図書館等の開放を行い、自ら学習に取り組む自学自習の態度を身に付けさせると同時に、ともに受験に立ち向かう集団作りを行う。
 - ③ 「進学指導特別推進校」として生徒に必要な補習・講習を開講し、生徒の希望進路の実現を支援する。
- (3)「町田高校グランドデザイン」に基づいた教育活動の実践を通して、学校の特色化を推進し、社会で活躍できる人材を育成する。
- ① 教養教育を重視し、人生を豊かに生きる素養を身に付けさせるとともに、多感な青年期に人生観・価値観・勤労観を形成させる。
 - ② ICTなどを活用した効果的・効率的な教育活動の推進を通して、主体的な学習態度や問題解決能力を育成し、生徒の学力を向上させる。
 - ③ 調査探究活動を通じて実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を設定し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせるとともに、思考力・判断力・表現力等の能力の育成を図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策・数値目標〔昨年度数値〕
1 学校経営・組織体制 (1) 組織的・計画的な学校運営の推進 ・「町高グランドデザイン」「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、教育目標の実現に向けて学校経営計画に基づいた取組を推進する。 ・PDCA（計画、実施、評価、改善）のマネジメントサイクルの機能を高める。 ・教育課程を適正に実施するとともに、教科主任会を通して、教科を横断した学習指導に関する情報交換や連携を促進する。 ・企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を密にし、ボトムアップ機能を充実させる。 ・人権尊重教育を推進し、暴言や体罰防止等に取り組む。また、服務事故防止を徹底する。 ・施設設備の安全確保に努めるとともに、効率的な自律経営推進予算の編成・執行・管理を行う。 ・経営企画室は、学校経営計画の実現に向けた取組を事務的な側面から推進することを目標として、経営企画室業が別に定める組織目標により運営していく。また行政職員の人材育成に係る取組として、実践的OJTを推進する。 (2) 指定校事業、特色ある教育活動の実践 ・指定校事業や連携事業等を活用し、特色ある教育活動を実践する。 ・すべての教育活動において、「東京都教育ビジョン（第5次）」に基づき、デジタル技術の活用による先進的な教育環境を整備し、生徒の情報活用能力を育成するとともに、ICTを適切に活用した学習活動の充実を図るなど、スマートスクールを推進する。 ・「東京グローバル人材育成計画'20」及び「東京グロ	① 学校経営計画に基づき、各教職員が自身の役割や目標達成のための具体的な手立てを自己申告書に記載し、校長面接等を通じて共有する。 ② 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い、業務を効率的に遂行する。 ③ 学校評価や授業評価などを活用し、的確に現状と課題を把握するとともに、学校運営の一層の改善を推進する。 ④ 学校経営計画の目標の達成に向けた各分掌等の評価を年3回実施し、現状と課題、達成状況等について学校運営連絡協議会などで報告する。また、学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 【学校評価：協議員の評価 100%〔75%〕】 【学校評価：入学満足度(生徒) 90%〔88.1%〕】 ⑤ <u>生徒の学力を向上させ、進学指導に資する教育課程を再検討する。</u> ⑥ センター契約率を高めることで、効率的な予算執行を行う。また学事、徴収事務の定期的な点検・確認（執行状況の報告月1回）を実施する。 【契約集約率 60%〔59.5%〕】 ⑦ 年3回の服務事故防止研修や業務点検等を行うことにより、個人情報や体罰等の防止対策など、職員のコンプライアンスに係る意識を啓発する。 ⑧ 入学選抜において定時制との連携を強化し、入選事故の未然防止を徹底する。 ⑨ <u>「進学指導特別推進校」として、質の高い授業を創造するとともに、高い進路志望を実現する。</u> ⑩ 「東京都国際交流リーディング校」「海外学校間交流推進校」として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流等を推進するこ

ーバル人材育成指針」を踏まえ、英語教育や探究学習を中心にグローバル人材の育成を図る。 (3) ライフ・ワーク・バランスの推進 ・「学校における働き方改革推進プラン」及び「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、業務の効率化・平準化に努め、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。	とでグローバル人材を育成する。 ⑪ 「Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education (GE-NET EE)」として外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、オンライン英会話やJET、ALTを活用するなど指導方法を改善する。また、全校生徒の60%以上に、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。 ⑫ 「AIを活用した英語教育の充実事業」に取り組み、生徒の英語力向上を推進する。 ⑬ 「DX ハイスクール」実施校として適切に事業を展開し、「情報Ⅱ」選択者の増加を図る。 ⑭ 理数教育強化のため、企業や大学等と連携して理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げる。 ⑮ 「総合的な探究の時間」の指導方法を改善し、論文や発表会をより高い水準にレベルアップさせる。 ⑯ <u>フリーアドレスの未来型職員室の利点を活用し、教員間のコミュニケーションを活発化、学年・分掌にとどまらない連携関係を強化した新たな働き方を推進する。</u> ⑰ 会議の時間を短縮するため、会議時間の上限を設定するとともに、ICTの効率的な活用に努め、紙資料を極力削減する。 ⑱ テレワーク、時差勤務等の新たな働き方を推進するとともに、教職員の超過勤務削減と年休取得を促進し、男性職員の育児休業取得を奨励する。 【1月あたりの超勤45時間超15人〔18.8人〕】												
学習指導 (1) 質の高い授業の創造と実践 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 ・適時適切な課題(宿題)を設定し、学習サイクルの定着を図るとともに、自学自習の取組を支援する。 ・文系・理系といった枠にとらわれないSTEAM教育を推進する。 ・全ての教科において、言語活動能力の向上に取り組み、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす指導内容・方法を研究・実践し、学力の向上を図る。 ・一人1台の端末を活用することにより、一人一人の力を最大限に伸ばしていく。 (2) 「教科マネジメント」の確立 ・3年間を見通した指導計画を作成し、指導と評価の一体化を目指す。 ・定期考査・外部模試等の分析、生徒による授業評価等を活用し、授業改善に取り組む。	① ICTを活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた双方向授業をさらに推進し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 【学校評価：ICT活用授業(生徒)95%〔90.7%〕】 ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。また、課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。さらに、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。 ③ <u>全教職員が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ(年3回程度)、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。</u> 【自主学習時間の取組】 <table><tr><td></td><td>平日</td><td>休日</td></tr><tr><td>1年生</td><td>2時間 40%〔31%〕</td><td>4時間 30%〔13%〕</td></tr><tr><td>2年生</td><td>3時間 40%〔28%〕</td><td>5時間 30%〔17%〕</td></tr><tr><td>3年生</td><td>5時間 60%〔56%〕</td><td>6時間 85%〔81%〕</td></tr></table> ④ 教養教育を重視し、受験科目だけではなく、全教科・科目を満遍なく学習させる。		平日	休日	1年生	2時間 40%〔31%〕	4時間 30%〔13%〕	2年生	3時間 40%〔28%〕	5時間 30%〔17%〕	3年生	5時間 60%〔56%〕	6時間 85%〔81%〕
	平日	休日											
1年生	2時間 40%〔31%〕	4時間 30%〔13%〕											
2年生	3時間 40%〔28%〕	5時間 30%〔17%〕											
3年生	5時間 60%〔56%〕	6時間 85%〔81%〕											

	⑤ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を推進する。 ⑥ 日々の教育活動において、統合型学習支援サービスを活用した教育活動に取り組むなど、オンラインの積極的活用・定着に取り組む。 ⑦ 多面的・多角的な評価に取り組み、ルーブリックに基づく、観点別学習評価を実践する。 【学校評価：評価基準の明示(生徒)90% [82.1%]】 ⑧ 生徒による授業評価(年2回)の結果等に基づき、授業改善に取り組む。 ⑨ 教員の相互授業参観(年3回以上)や他校の授業見学等などにより、教員の授業力向上を図る。
3 進路指導 (1) 一貫した組織的な進路指導体制の構築 ・進路指導部を中心とした3年間を見通した体系的な進路指導を行い、検証・改善を繰り返しながら組織的な進路指導を実践する。 ・進路指導部と学年が連携し、HRや学年集会等を通じて、意図的・計画的な情報提供・ガイダンス等を積極的に行う。 ・生徒と学習進路相談を年間に複数回実施し、進学希望・学習状況を把握する。また、高い目標をもたせ、目標を達成できるように計画的に進路指導を行う。 ・あらゆる場面を通じて、保護者に対する進路情報を積極的に提供する。 ・放課後・土曜日・長期休業中等の講習や補習を充実させ、基礎学力の向上、発展的な学力の充実を図る。 (2) 国公立・難関私立大学受験の強化 ・入学当初から進学に対する意識づけを行い、進路意識を高め、適切な進路決定を行わせる。 ・成績推移等の情報を共有し、担任・教科担当・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励まし、第一志望を貫くよう学校全体で支援する。 ・志望大学別学習法及び合格大学別在学中の成績の推移等のデータを在校生に早期に提供する。	① データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。 ② <u>国公立大学から難関私大、中堅私大等、生徒の学習状況に応じた適切な進路指導を行う。</u> ③ 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、東京都立大学等との高大連携事業等を計画的に実施する。 ④ 卒業学年の担任団、新3学年の担任団及び進路指導部で年度末に進路指導引継ぎ会を行う。 ⑤ 進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会を捉えて、難関校に挑戦する高い志を抱くように支援する。 ⑥ 保護者会において、進路情報の提供を行い、保護者の受験に対する意識を高めるとともに、<u>保護者面談または三者面談を実施(各クラス年1回以上)することにより</u>、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。 ⑦ 進路指導部、学年による「進路だより」を月1回以上発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。 ⑧ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト(各学年)、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。 ⑨ 各教科会で効果的な講習内容を検討し、3年間を見通した講習計画を構築する。 ⑩ 探究学習を生かした総合型選抜を希望する生徒を対象に個別指導を実施する。 ⑪ 安易に現状の学力に見合った進路を選択し、受験科目を減らすことのないよう全員で支援する。 【共通テストフル型受験者 130 人 [128 人]】 【共通テスト総合得点率 80%以上、受験者の 6%以上 [5.5%]】 【現役国公立大学合格者 80 名 [68 名]】 【早慶上理 GMARCH 現役合格者 300 名 [255 名]】

4 生活指導 (1) 規範意識や公共心の育成 ・都立高校生活指導指針を踏まえ、日々の教育活動を通じて公共心を育み、規範意識を高め、社会人としての自覚と責任感を涵養する。 ・TPOに応じた身だしなみ・立ち居振る舞い・言葉遣いができるよう教師自ら率先垂範して指導する。 ・いじめ防止（未然防止・早期発見・早期対応）や思いやりのある生徒を育むため、学校いじめ対策委員会と学年が連携を図って、いじめ防止に取り組む。 ・学年・生活指導と連携し、継続的・段階的に授業規律の徹底を図る。 ・「SNS学校ルール」に基づき指導を行い、いじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐ。	① HR活動、学年集会や全校集会等を通じて、「規範意識や公共心を育成」「思いやりの心といじめを許さない雰囲気醸成」「命の教育の推進」に取り組む。 ② 基本的な生活習慣を確立させるとともに、「遅刻指導」「チャイム始業・チャイム終業」「挨拶の励行」を徹底する。 ③ <u>交通ルールを守らせ、登下校の際のマナー向上を図る。特に自転車通学者においては保険への加入及びヘルメットの着用を義務付ける。</u> ④ いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。いじめが認知された場合には、学校サポートチームと連携し、対応に当たる。 【学校評価：いじめへの取り組み（生徒）90%〔88.0%〕】 ⑤ 人権意識を高め、被害者・加害者とならないよう指導する。また、「SNS家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。
5 健康づくり等 (1) 健全な心身を育む取組、教育相談機能の充実 ・命を大切にする教育を推進するため、企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが、連携を密にした組織的な指導を行う。 ・スクールカウンセラーと連携した教育相談を行う。また、専門医や必要に応じて外部機関を活用し、多様化する生徒の課題に対応し、生徒の心身の悩みに寄り添った指導を実践する。 ・「東京都特別支援教育推進計画（第二次実施計画）」に基づき、特別な支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラー、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等の開催を通して支援を行う。また ・「TOKYO ACTIVEPLAN for students」を参考にして、早期から基礎体力向上に取り組み、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体を育てる。 (2) 校内美化への取組、防災教育・安全教育の推進 ・環境教育及び持続可能な社会の発展に向けた教育を通して、ゴミの分別・削減、節電を推進する。 ・地域と連携した防災訓練、避難所設営・運営訓練などの体験的・実践的な訓練を通して他者や地域の安全を支える能力を身に付けさせる。 ・公共の精神を高め、公共スペースの清掃や整理整頓に自発的に取り組むとともに、交通マナーを守り、通学路における譲り合いのできる生徒を育てる。	① コンディションレポートを導入、また登校時やホームルームにおいて、生徒の健康状態などの様子を観察し、日常的に声掛けを行う。 ② 学校における自殺予防教育を推進させるため、「SOSの出し方に関する教育」を推進する。 ③ <u>スクールカウンセラーと連携し、特別な支援が必要な生徒に対する支援を行う。また、1学年を対象とした全員面接を7月までに実施する等教育相談を充実させる。</u> 【学校評価：教育相談環境（生徒）90%〔87.5%〕】 ④ 発達障害のある生徒に対する支援方法について、東京都エリアネットワーク等を活用し、年間1回程度、校内研修を実施する。 ⑤ 体育の授業や特別活動、部活動などを通じて、基礎体力の向上に向けて計画的に取り組む。 ⑥ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、日々、校内美化に努める。 ⑦ 避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会など通して防災意識を啓発する。また、原則として1学年の1学期中に「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。 ⑧ <u>町田市の避難所指定に鑑み、地域や関係諸機関と連携した総合防災訓練を実施する。</u>
6 特別活動・部活動 (1) 特別活動・部活動を活かした人材育成 ・学校行事や部活動等を通して、「自主・自律」「文武両道」「伝統と創造」の精神を涵養し、リーダーとしての人間力を育成する。 ・学習活動と特別活動（部活動・学校行事等）の両立	① <u>体育祭の開催を5月に移行し、合唱祭・文化祭・球技大会の四大大行事の新たなスケジュール計画を構築する。</u> ② 「切替えと集中」により、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・

ができるように生徒の自律心を養うとともに、適切な指導・助言の下、生徒の主体性を育成する。 ・主体的に部活動や学校行事に取り組ませ、充実した高校生活を過ごさせることにより、自信と愛校心を高める。 ・部活動では、高い目標を設定し、困難な場面を乗り越える力の育成に努め、達成感を体験させることで、生徒の自信や自尊感情を高める。	学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。 【学校評価：学習と特別活動の両立(生徒)80%〔72.7%〕】 ③ <u>生徒の主体的活動を支援し、ホームルーム活動・学校行事・委員会活動・部活動等の活性化を図る、また、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを体験させ、コミュニケーション能力及びリーダーシップを育成する。</u> 【部活加入率 92%以上】(生徒)〔92.0%〕
7 募集・広報活動 (1) 広報活動の充実と募集対策の強化 ・学校見学会、学校説明会等の内容を充実させ、中学校訪問、塾訪問、各種説明会等に積極的に参加する。 ・新ホームページやSNS活用し、部活動・学校行事及び本校の特色を積極的に発信し、本校の教育活動を広く都民に周知する。	① <u>中学生・保護者に本校の教育活動の周知のため、学校説明会、学校見学会、部活動体験、授業体験、出前授業、中学校訪問及び塾訪問等を積極的に実施し、募集・広報活動に努める。全教職員体制で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数を増やし、応募倍率の向上を図る。</u> 【学校見学会・説明会参加人数 4500 名〔4097 名〕】 【推薦に基づく選抜 2.0 倍〔1.80 倍〕】 【学力検査に基づく選抜 1.4 倍〔1.17 倍〕】 ② <u>ホームページの内容を充実させ、X・インスタグラムとともに情報発信を活性化させる。</u> 【HP 等更新 300 回以上〔346+80 回〕】 ③ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。 ④ 塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 【50 名〔23 名〕】 ⑥ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 【4500 名〔3500 名(台風のため 1 日公開)〕】 ⑨ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図る。